

◇カレンダーって正月に変えたのでは間に合わない。みなさん気が早くなって、秋には新しいカレンダーが必要になってきます。昨秋、十月中旬に古くからの知り合いから、「平成六年十月某日、本堂の落慶と新しい住職を迎える晋山式（しんざんしき）を行うから、予定をあげておいて！」という葉書が舞い込みました。一年前から教えられてしまおうと、「いやー、その日は先約がありまして」というお断りの常套語は使えない。有り難く旧年のカレンダーの余白に大きく書き込んだのでした。

◇私が使っているのは半紙ほどの大きさの紙のカレンダーです。このカレンダーはお坊さん専用の便利グッズです。用紙一枚に一ヶ月が印刷され、一週間のうち、土曜日と日曜日のマスが他の曜日よりも大きくて、メモがいっぱい書けるようになっていきます。なぜなら、週末に年忌法要をされる方が多いから。これをどう使っているのか。たとえば、ご法事の予定を受けた時、日時お名前何回忌、とペンで記入します。次にスマホのデジタルカレンダーに転記します。スマホから紙へ、と順番が逆になる場合もあって転記し忘れて、

後編 集記

ひやりとすることがあります。転記、転校、転勤と転のつく言葉は困難なことが多い。

◇自由な学生生活から禅の修行道場に転じた、わが子のことを今頃になってお知らせしました。お盆や春秋彼岸のご案内に書いてもよかったです。自分で言うのはナンだけど、禅宗の道場ってキツイのですよ。それで、新人修行僧の中には、逃げ出すのが何人かいるわけ。逃げたりしたらカッコウ悪いと思つて、どうにか勤まる目星がついた今になって、お知らせしました。

◇昨春やはり修行道場に入門した若者がいました。寺の息子ではありません。国立大学を卒業して禅にあこがれて出家（しゅつけ）僧になること）しました。残念ながら一ヶ月ほどで、道場を出てしまったようです。若者を道場へ送り込んだお師匠さんが言いました。「松岩寺の大樹君は背負うものが大きいから逃げたりしないけれど、あこがれだけでは勤まらない」。背負うものが大きいのは可哀想だけど、重い物を背負っているからこそ、耐えられることもある。本人が試されるのはもちろんですが、送り出す側も試された旧年でした。

新春です。春とは言いながら、寒さはこれからが本番。寒い正月だから、元旦から三日間の祈祷法要中、本堂はエアコンとガスストーブと石油ストーブで温めます。

元旦には法要を二回します。去年は二回目の十一時からの法要でガスストーブが消えていて参列者は、少しばかり寒かった。ごめんなさい。なぜ、ガスストーブが消えていたかというと、ガス漏れ防止のため、ガスを三時間以上連続して使うと、元栓が自動的に切れる仕組みになっているのですね。それを忘れていて、ガスストーブがとまってのになんか気がなかつた。

なんでも、自動でやってくれるから、事故も減るし便利になっている。でも、それに頼ってしまうと、人間が生まれつきもっている本能がなくなってしまうのではないか。ただでさえにぶい本能をみがくために、少し前からマニュアル車を運転しています。なーんて偉そうなことを書いているけれど、真実は坊主根性



よろしく、夕方でいただいた車がマニュアル車だったからにすぎない。走行距離十二万キロ以上のオンボロだけど（失礼）、これで坂道発進ができなくなったら免許返納しようと思つています。

なんでも自動になって、車を運転する時も地図は不要になったし、列車に乗るにもぶ厚い時刻表はいらなくなつた。電話番号帳も長いことみたことがない。重い荷物から解放されて身軽になつた分、何か素晴らしいことをやっているかという……、やつてない。

さて、檀家さんから、「息子や孫に墓地や供養とかの重荷は背負わせたくない。どうしよう」という相談をよくうけます。人生、順調な時

ばかりではない。墓も供養も捨てて身軽で軽薄になつた息子さんやお孫さんに突風が吹きつけたら、どこかへ飛ばされてしまうのでは？。

徳川家康は次のような言葉を遺しています。「人の一生は重荷を負（お）いて遠き道をゆくが如し。急ぐべからず」。名言です。（住職記）